

かがやく

2016年 APRIL NO.8

福島県に耀く人と未来と文化スポーツのために

東邦銀行 教育・文化財団の活動

西田記念館の来館者 20 万人達成!! / 奨学金事業について	2
助成金交付対象団体と活動 (平成 28 年度上期文化・スポーツ活動ほか)	
／公益財団法人末延財団様から義捐金 30 百万円の寄附	3
源郷のこけし群 西田記念館の展示 (報告・案内)	4
かがやく FLASH	
平成 27-28 年度助成団体の活動から	6
ITP いわき演劇プロジェクト／福島県障害者フライングディスク協会／ 霊山神社濫觴武楽隊／中田郷民俗芸能保存会	
SPOTLIGHT TALK 「春奏の会」 (福島市)	8



黒岩春日神社雅楽部
(福島市_H26 助成)

▲平成 27 年 11 月 14 日
原郷のこけし群西田記念館での開館 20 周年記念披露より



霊山神社濫觴武楽隊
(伊達市_H28 助成)
(本紙 6 ページに紹介記事)

下町子供手踊り保存会
(南相馬市_H27 助成)



中田郷民俗芸能保存会 (石川町_H28 助成)
(本紙 7 ページに紹介記事)

SPOT LIGHT 「地域の活性化に貢献する文化活動」への助成から

東日本大震災・原発事故後6回目の春、被災地・被災者においてはそれぞれの再興・復活のこまごまの歩みを確認、さらなる前進を期しているところでしょう。この間私たちは、被災地等における民俗芸能等の伝統文化が、地域復興に向けての人々の再結集と活性化のよりどころとして大きな力を発揮し、とりわけ子どもたちや若者の参加がその力を倍加させるのを目の当たりにしてきました。

このことから当財団では助成対象に「地域の活性化に貢献する文化活動」ほかを新たに加え、平成 26 年から「地域に根ざした伝統文化(民俗芸能)の保存と伝承、後継者の育成活動」等への助成を行っています。

公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
<http://www.tohobankkyoikubunka.jp/>

TOPICS 助成金交付先対象団体と活動

東邦銀行教育・文化財団の助成金交付先対象団体について、1. 平成28年度上期文化・スポーツ活動（平成28年4月から平成28年9月までの期間に実施予定の文化・スポーツ活動）は次の18団体（助成金額230万円）、2. 地域の活性化に貢献する文化活動は次の3団体（助成金額30万円）、3. 高校生対象の文化・教育研究活動は次の3団体（助成金額20万円）に決定しました。（助成金総額280万円）

1. 平成28年度上期文化・スポーツ活動（決定）団体と活動名（文化9団体・スポーツ9団体）

団体名	助成対象活動名	開催日・開催場所
春奏の会（福島市）	春奏2016 第23回箏曲演奏会	H28.4.2(土) 伊達市立保原小学校
パシオン プーロ・フラメンコ（福島市）	第6回発表会“フィエスタ デ ヴェラーノ”	H28.7.24(日) 福島テルサ
フィール・ウインド・オーケストラ（伊達市）	第17回定期演奏会	H28.6.19(日) 福島県文化センター大ホール
福島県水彩画会（郡山市）	第62回福島県水彩展	H28.6.28(火)～7.3(日) 郡山市民文化センター展示室
表郷戦争回顧展実行委員会（白河市）	戦争を後世に伝えるための調査記録作成、及び戦争回顧展開催	H28.4～9月の期間 表郷多目的研修センター他
初音会（西白河郡）	箏曲演奏会 日本の響き	H28.6.26(日) 矢吹町文化センター
会津美術協会（会津若松市）	第70回記念会津総合美術展	H28.4.16(土)～24(日) 会津若松市文化センター
田島太鼓 龍巳会（南会津郡）	田島太鼓 龍巳会 10周年記念コンサート	H28.8.7(日) 南会津町 御蔵交流館
優しく歌おうコスモスの会（いわき市）	石河清88才のファイナル・コンサート	H28.5.7(土) いわき市文化センター大ホール
飯野町ソフトボールスポーツ少年団（福島市）	第4回UFOカップ	H28.7.2(土) 伊達市月館運動場
川俣ジュニアフレンズスポーツ少年団（伊達郡）	川俣ジュニアフレンズスポーツ少年団結成41ソフトボール大会	H28.6.26(日) 伊達市月館運動場他
旭ミニバスケットボールスポーツ少年団（二本松市）	第3回 ASAHI CUP	H28.5.21(土)5.22(日) 二本松市城山総合体育館他
福島県障害者フライングディスク協会（郡山市）	第17回福島県障がい者フライングディスク大会	H28.7.3(日) 田村市陸上競技場
小山田富西ミニバスケットボールスポーツ少年団（郡山市）	第20回小山田ミニバスケットボールフェスティバル	H28.8.20(土)8.21(日) ユラックス熱海体育館他
大槻バレーボールスポーツ少年団（郡山市）	第2回東日本震災復興祈念 大槻杯バレーボール大会	H28.9.17(土)9.18(日) 郡山市西部体育館他
朝日が丘ソフトボールスポーツ少年団（郡山市）	朝日が丘ソフトボールスポーツ少年団結成30周年記念大会	H28.9.18(日) 朝日が丘小学校他
三春軟式野球スポーツ少年団（田村郡）	三春軟式野球スポーツ少年団結成5周年記念交流大会	H28.9.10(土)9.11(日) 三春町野球場他
ジギスカップ実行委員会（マウンテンバイク）（耶麻郡）	ジギスカップIN磐梯高原 10周年記念事業	H28.7.24(日)8.28(日)10.1(土) 磐梯南ヶ丘牧場

2. 地域の活性化に貢献する文化活動（決定）団体と活動名（3団体）

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
霊山神社瀧武楽隊	霊山神社の春季例大祭にて「瀧武楽」を奉納。地元の児童に郷土芸能を伝承。	霊山神社「瀧武楽」の古式ゆかしい伝統奉納。
福島虫の会	自然の観察・調査・研究等を開催。機関紙「ふくしまの虫」を発行。	県内に生息する昆虫を調査。
中田郷民俗芸能保存会	三匹獅子舞演目「山」の復元、ささら子ども教室の実施。	石川町中田地区に伝わる「中田のささら」等の民俗芸能。

3. 高校生対象の文化・教育研究活動（決定）団体と活動名（3団体）

団体名	助成対象活動の内容	活動場所
福島県立福島高等学校 スーパーサイエンス部好適環境水班	好適環境水で育った魚の生理学的・遺伝学的変化の調査。	同校生物実験室
福島県立福島高等学校 スーパーサイエンス部放射線班	福島県内外の高校生個人線量調査・分析研究。	同校物理実験室
福島県鷲城第一高等学校 フラ愛好会「ブアラニ」	市内の福祉施設、保育所等でのフラ披露を通して、地域活性化や人材の交流を図る。	いわき市内を中心

TOPICS 公益財団法人末延財団様から 義捐金 30 百万円の寄附

今般、東京の公益財団法人末延財団様から県内現状を鑑み被災生徒へ奨学金として役立てて欲しいと義捐金 30 百万円の寄附をいただきました。平成24年度にも30百万円寄附を受け、その義捐金を原資に「末延財団震災特別枠」として3年間募集、のべ39名に奨学金を給付しています。今年度以降、同様に震災特別枠として増枠募集予定です。（詳細2ページ掲載）
また、3月3日第75回理事会の席で、多額の寄附をいただいた福島商事株式会社、東邦土地建物株式会社、東邦ビル株式会社の3社様に感謝状の贈呈を行いました。



左から高城理事長、油井さん、生田さん、油井さんの奥さま、鹿野常務理事

TOPICS

西田記念館の来館者 20万人達成!!

東邦銀行教育・文化財団附属「西田記念館」は、平成27年4月の開館から20周年を迎えた記念の年に、来館者20万人を達成しました。
20万人目となった福島市笹木野の生田さん（写真中央）と義兄の油井さんご夫妻の3名には、当財団の高城理事長より感謝状とこけしセットなどの記念品を贈呈しました。
油井さんは「こけし好きで度々訪れています。が、音楽会などの催しも楽しいので今後も足を運びたい」とのことでした。引き続きロビーでの催しやさまざまな企画を開催して参りますので、是非一度西田記念館へ足をお運び下さい。

TOPICS

当財団の奨学金事業について

「平成29年度新規奨学生」の募集を開始します。

「募集期間」は、5月～6月です。（募集開始時に発表します。）
「願書・推薦調書等の必要書類」は県内の各高等学校長宛へ送付いたします。（学校を通しての申込みとなります。）
今年度から通常枠15名に、公益財団法人末延財団様からの「末延財団特別枠」10名を加えて25名の募集となります。

なお、「奨学生募集の内容について」は左記のとおりです（当財団のホームページへも掲載しています）。

1. 応募資格

- 次の各号の要件に該当する方
- 福島県内在住の高等学校を卒業予定の方で、学校教育法に定める大学のうち、**4年制以上の大学に進学を希望する方。**
 - 学業優秀、心身健全、品行方正である方。
 - 経済的理由のため修学が困難であると認められること。
 - 福島県内に居住し、生計を維持する保護者の子弟であること。
 - 在学する**高等学校長の推薦**を得られる方。
- ※ なお、他の奨学金制度との併用も可能です。

2. 奨学金の給付額（返済の義務はありません）

入学年度	年額	200,000円
2学年～4学年	年額	200,000円
総額		800,000円

3. 奨学資金の給付期間 入学後 4年間

4. 採用予定数

25名（通常枠15名、及び末延財団特別枠10名）

5. 選考および決定通知

- 当財団規定により審査委員会の選考を経て理事会において決定（内定）します。決定後速やかに在学する高等学校長経由で本人あて通知します。
- 入学後**大学の在学証明書の提出**により確認し、正式採用者と決定します。

★お問い合わせは：《公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団事務局 奨学金担当
TEL 024-523-5882》までお願いします。



原郷のほほえみ

原郷のこけし群 西田記念館
福島市荒井字横塚 3-183 (アンナガーデン)
TEL 024-593-0639 / FAX 024-593-0811
http://nishidakinenkan.or.jp/

企画展報告 ■平成27年4月～7月
西田記念館開館20周年記念特別展

「西田記念館20年の軌跡」



これまでの企画展ポスターと関連こけし

西田記念館は東邦銀行の創立50周年記念事業として「より豊かな地域文化の創造及び地域住民の健康増進」を目的に設立された財団法人 東邦銀行文化財団（現公益財団法人 東邦銀行教育・文化財団）の事業の一つです。今回の企画展では、平成7年に開館した西田記念館がどのように地域とかわり、歩んできたかをこれまでの展示、教育普及活動、文化事業などを通してご紹介しました。

■西田記念館の展示

各展示室と地階ロビーの写真コーナーは年2～4回の展示替えを行っています。特に、西田記念館はこけし専門展示館の中でも企画展を開催する特色を持っており、毎年運営委員会企画展のテーマを決めています。



これまでの企画展と関連こけしの展示

今回の企画展では、これまで開催した企画展とその関連こけしポスターで紹介したこけしなどを展示し、これまでの軌跡を振り返りました。

この他にも、一般に広くこけしを紹介するため、東邦銀行のロビーで開催した出張こけし展示会も紹介しました。この展示会は、開催する支店により地域のこけしを紹介したり、現役

工人の紹介をしたりなど身近なこけしをテーマにしています。

■教育・普及活動

西田記念館では学校教育における見学学習を無料で受け入れており、こけしの歴史や特徴を楽しく学ぶことができるよう様々な資料や映像をそろえ紹介しています。見学内容は学校側との相談により、学芸員解説によるこけしの歴史・作り方・特徴の紹介、展示室の見学、こ



小学生への教育・普及活動

けし工人が作る様々な木地玩具の体験などを行っています。また、小学校での出前授業や学習センター・公民館での一般向けこけし講座も行っています。企画展では、このような活動の様子を写真パネルで紹介しました。

■文化事業



開館20周年記念「春奏の会演奏会」

西田記念館のロビーでは、文化事業として平成9年に北川暁子氏のピアノリサイタル、平成10年に「うつくしまふくしま物語紀行」として民話と方言詩の

つどいが行われました。さらに、今年度は開館20周年事業として様々な演奏会が開催されました。演奏会当日は無料開放され、こけしと共に演奏や伝統芸能を多くの方に楽しんでいただきました。

■地域とのかかわり

西田記念館は平成7年のオープン以降アンナガーデン形成の一翼を担ってきました。オープン当初、記念館周辺は平成5年にできた聖アンナ教会とレストランがある静かな高台でした。しかし、記念館オープン後、次々と新しい店ができること各店の代表が集まってアンナの会が発足し、福島の観光地アンナガーデンへと発展しました。企画展ではこれまでのアンナガーデンのパンフレットを展示し、店舗の移り変わりの様子を紹介しました。

また、西田記念館はこけしを中心とした様々な地域イベントにも協賛していま



福島のこけし愛好会コレクション展

す。4月の土湯こけし祭りや10月の東北文化の日の無料開放、7月のこけしの展示即売会「美輪展」への会場提供・無料開放を行っています。また、平成27年は開館20周年記念特別展として「福島のこけし愛好会コレクション展」を企画し、県内に拠点がある愛好会のコレクションを一堂に紹介しました。

平成28年度の企画展

4月～7月
「変化は進歩」を求めて
美輪展25年の歩み

美輪展とは、こけし工人の親睦と創作意欲の高揚のため平成3年に発足した「美輪会」工人による展示会のことです。この展示会では東北各地からこけし工人が集まってこけしや木地玩具の展示即売が行われ、伝統こけしの世界に新風を吹き込んでいます。美輪展は毎年7月当館を会場に開催され、今年25回を迎えることからその歩みをご紹介します。



8月～11月
世界を駆けめぐるこけし
「メキシコ」展

メキシコ先住民による絵付けこけし「メキシコけし」とこけし工人がメキシコをイメージしたこけし、メキシコの手芸品などを「CHIDO PROJECT」との共同主催により展示します。また、この他にもこれまでのこけしの国際文化交流や世界の木地玩具などもご紹介いたします。

12月～3月
福島を中心とした
こけし産地とその背景

こけし発生の技術基盤となった木地業の歴史や生活、こけし産地との係わりについて福島を中心に木地屋文書や木地製品を展示してご紹介いたします。

東邦銀行教育・文化財団では、平成28年10月から同29年3月までの期間中に活動計画のある「文化・スポーツ団体」を対象に、平成28年5月1日～6月30日まで助成申請の受付を行う予定です。
 ▶詳しくは当財団のホームページの「文化・スポーツに対する助成事業」をご覧くださいか、事務局 ☎(024) 523-5882 までご照会ください。

東邦銀行教育・文化財団が平成27年度に助成を行った「文化・スポーツ団体の活動」から、今回はいわき市の「ITPいわき演劇プロジェクト」と郡山市の「福島県障害者フライングディスク協会」、および平成28年度に助成を行う「地域の活性化に貢献する文化活動」の中から、伊達市の「霊山神社濫觴武楽隊」、石川町の「中田郷民俗芸能保存会」の活動をご紹介します。

文化・スポーツ活動
平成27年度上期
助成団体
「文化部門」

ITPいわき演劇プロジェクト（いわき市）
ITPいわき演劇プロジェクト
俳優養成塾公演「時の物置」

平成27年5月16日(土)、5月17日(日) いわき芸術文化交流館アリオス

いわき演劇の活気を取り戻す！
質の高い「初舞台」に驚きの声

震災直後、若い演劇人の他県への避難や見通せない将来への不安から活気を失ってしまったいわきの街と演劇界。そこに以前の賑わいを取り戻したい！と結成されたITPいわき演劇プロジェクトの「俳優養成塾」塾生らによる、初めての公演でした。現役高校生1人、初舞台2人ほか市内のアマチュア演劇人ら、合計16人という大人数のキャストが繰り広げた個性溢れる熱演とリアルな舞台装置に、客席からは惜しめない拍手と絶賛の声が送られました。

「時の物置」は、第2次大戦後の急激な価値観の変化を生活の場から描いた劇作家・永井愛の「戦後生活史劇3部作」の第1部にあたる作品で、1960年代の高度経済成長期の「新城家」の茶の間を中心に、忘れられない「時」が刻まれてゆく様子が描かれます。60歳代の観客はテレビが茶の間に入ってきたころの気



ITPいわき演劇プロジェクトは、いわきの演劇人の育成と演劇文化再興・発展を目指して、劇団青年座の高木達（いわき市出身）と地元竹田一行が中心になって立ち上げた企画・制作集団。震災直後の平成23年5月に結成、現会員数10名。

分を思い出し、若い世代は親や祖母らの時代を目の当たりにする思いで舞台に引き込まれ、演劇の醍醐味を味わうことができたようでした。

公演後、竹田一行代表は「地道ながらも継続して活動を続けることが必要です。質の高い作品・舞台を観客に提供し、それによって演劇の分野で中心となる団体を目指し、首都圏での公演（いわきを発信する）も視野に入れて活動していきます」とさらなる抱負を語ってくれました。

「地域の活性化に貢献する文化活動」平成28年度助成団体

● 霊山神社濫觴武楽隊（伊達市）
「濫觴武楽」の伝承とその普及への活動

霊山神社の春の例大祭（4月29日）で、地元大石小学校の児童を含む濫觴武楽隊が、白樺白鉢巻の武装姿で拝殿へと進み、笛太鼓の囀りに合わせ天空に太刀をかざし、勇壮な剣舞を奉納しています。同神社にまつられた南朝の武将・北畠顕家が国府を霊山に移した際、地元民が歓迎して舞ったのが起源といわれる濫觴武楽の舞です。（表紙参照）

同武楽隊では、濫觴武楽を地元小学生に受け継いでもらうため、大石小学校の授業に直接参加して指導しています。その様子を目にした担任の教諭は「児童が振り上げた刀に光が反射する様子を見て、昔の子どもたちも同じように踊っていたのだと思い、感慨深いものがありました」と話します。そして、小学校最後の舞を奉納した6年生は「本番は緊張しましたが、精一杯、思い切り、楽しくできました。これからは学んだことを下級生に教えたいです」と、ひとまわり大きくなった様子を見せ



武楽隊代表の大橋吉成さんは「濫觴武楽の舞は、地元小学生と児童保護者の深い理解により、児童の参加を得て存続しています。私たちは武楽で使用する衣装や備品の管理補充も行っています」と語ってくれました。

てくれたそうです。

また舞を観た方からは「時空を超えて途絶えることなく伝承され、毎年欠かさず奉納されている地元の方々の熱い心に感激した」という声が聞かれました。

● 中田郷民俗芸能保存会（石川町）
「中田のささら」を次世代へ継承



三匹獅子舞（ささら子ども教室発表会）

三匹獅子舞演目「山」の復元や、その青少年への伝承のための練習指導も行っています。瀬谷事務局長からは「子どもの演目は以前、7組の当番で実施していましたが、今では子どもが少なくなり地区全体から選出しているため、演奏曲を統一して実施しています」との苦労話もありましたが、会員らは「伝統芸能を絶やすことなく続けたい、を合言葉に頑張っています」と意気盛んです。地元小学校での「ささら子ども教室」も開催しており、体験した子どもたちの「楽しかった。これからは踊りたい」の声を力に、地域の活性化を目指しています。

石川町中田地区の八坂神社で、毎年9月に子どもたちの三匹獅子舞、また青年の「あばれ神楽」などが勇壮に奉納されます（表紙参照）。その総称が「中田のささら」で、三匹獅子舞、四方固め、神楽3種、白鉢巻など数多い演目が伝承されています。中でも「白鉢巻踊り」は、当地区に伝わる田植えの所作を用いた神おろしの名残をとどめた珍しい踊りです。



白鉢巻踊り（ささら子ども教室発表会）



福島県障害者フライングディスク協会は、障がい者のフライングディスク競技の普及と地域における発展及び指導員の養成、障がい者自身が積極的に活動すること、社会参加の促進などを目的に平成12年5月に結成された。現会員数130名。

文化・スポーツ活動
平成27年度上期
助成団体
「スポーツ部門」

● 福島県障害者フライングディスク協会（郡山市）
第16回福島県障がい者
フライングディスク大会

平成27年7月12日(日) 田村市陸上競技場

フライングディスクに
気持ちをのせて

今回の大会は、障がい者にスポーツを通して心身の維持増進と積極的な社会参加をしてもらおう、また、田村市に原子力災害から避難している障がい者の方に少しでも楽しい時間を過ごしてもらおうと、田村市での継続開催となりました。当日は晴天にも恵まれ、例年以上の参加者数となり、盛会でした。

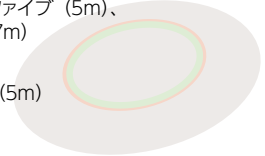
当日は、大会に初めて参加した施

設チームや個人だけでなく、施設関係者の方も選手と一緒に楽しんでいました。選手たちは「暑かったけれど、がんばりました。メダルをもらえて、またみんなに応援されてうれしかったです。ディスクを投げるのが楽しいです」と話してくれました。

丹野大協会長は「当協会はどこへでも出張してフライングディスク教室を行います。障がいを持った方と健康の方、子どもからお年寄りの方までが一緒に楽しめるスポーツですので、声をかけていただければと思います」と話しています。

【競技種目】大会は下記の種目で競われました

- ディスタンス（個人）競技
レディース・シッティング（女子座位）、
メンズ・シッティング（男子座位）、
レディース・スタンディング（女子立位）、
メンズ・スタンディング（男子立位）
- アキュラシー（個人）競技
ディスリート・ワン（1m）、ディスリート・スリー（3m）、
ディスリート・ファイブ（5m）、
ディスリート・セブン（7m）
- アキュラシー団体競技
ディスリート・ファイブ（5m）





そう 箏の音色の魅力を、 より多くの人へ伝えたい

春奏の会 (福島市岡部)

会長の沓澤宏さん(左)と箏を指導する沓澤美奈子さん。元教師の二人の優しく温かい人柄から会の雰囲気伝わってきた



原郷のこけし群西田記念館にて。「いつもと違う発表の機会を頂き、有意義な演奏会となった」

★ 箏の音色を追い求めて

会長の沓澤宏さんのご自宅が例会場。会員22名が、ここに月4回集う。奥さま美奈子さんが箏(琴)の指導を務めている。部屋に箏の音色が響く。和の弦楽器がもつ、何ともいえないゆらぎの音が、身も心も包み込んでくれる。「箏は伝統の世界ですから、宗家やしきたりやら、さまざまにながらみがあります。でも、それらをついたん外して、子どもたちにも教えて自分たちも楽しみたい。箏曲をボビュラーなものにしていきたい。そう思ったんです」と宏さん。「そんな会の匂いを嗅ぎつけた人たちが、自然とメンバーは集まりました」と笑う美奈子さん。

美奈子さんが福島市内の小学校でクラブ活動を指導していた時、児童の一人がイギリスに渡ることになり、その前に琴で「春の海」を弾けるようになってから行きたい、という申し出があったという。特訓の末いよいよ「お別れ会をしましょう」ということになり、美奈子さんの仲間も含めて一緒に演奏会を開いた。これを「春奏の会・演奏会」の第一回に、と活動を始めた。正式発足は平成6年。以来毎年、春に定期演奏会を開き、今年で23回を重ねた。

★ 「つたなさ」からも伝わる感動を

「昨年の演奏会のあとに、『愛好会の皆さんの演奏は、深くて重くて優しくて、



第22回 春奏の会 箏曲演奏会 (2015年)にて。幅広い年代層の会員の顔ぶれも大きな魅力!

弾いている一所懸命さ、つたなさが伝わる。感動して涙が出た」と言ってくださった方がいるんです」と美奈子さん。つたなさをほめてくれたのが嬉しい、と二人は口をそろえる。コンクールではないのだから、自分なりに表現すれば下手でも一所懸命さが伝わる。それが聴く人の心を打つ。上手下手を超えて、いかに自分の表現をしようとしているか、そこを会は大切にしている。だから、この感想をもらって、「ああ、私たちが今やっていること、これでいいんだね」とみんな確認しあっていたのだという。

演奏会曲目は、伝統的な箏曲だけでなく、最新のヒット曲なども取り入れている。「メンバーがやりたい、という最近の曲を演奏したりしています。やつてみてちょうと合わないいな...という時は却下しますが(笑)」。また楽曲によっては箏、三絃(三味線)のほか、フルート、ホルン、ピアノなどもコラボし、普段聴くことのない音色を楽しん

でもらう工夫も凝らしている。

昨秋は原郷のこけし群西田記念館での演奏会も実現した。「そういう機会を頂いて演奏できるのは大変ありがたいです」と宏さん。美奈子さんも「会場のロケーションがとても素晴らしくて、いつもとちがう場所でもやるのもいいですね。音を出すことによって、そこがまた違う空間になるのがいい」と目を細めた。自分たちの演奏を聴いた人が、何かを感じてくれる。それを会のメンバーたちは無上の喜びとしている。

★ 邦楽の楽しさを広く伝えたい

大切にしているものがあるという。「あの音、あの音楽、という『いいもの』が自分の中にあつて、それに近づきたい、という気持ちで練習し、演奏することが大事」と美奈子さん。同じメロディを弾いても、それが簡単な曲であっても、師と仰ぐ人の演奏はまったく違う、その音色は深いのだという。そういう憧れの音を、メンバー一人ひとりが心の中に持っている。

「箏にはもうすぐの火のゆらぎのような、日本的な音楽の魅力があります。そんな魅力をより多くの人に感じてもらいたいですね」と宏さん。美奈子さんは「でも公教育での指導者が足りないのが実情です」と、会のメンバーともども学校を訪問、琴の指導を行うなど、種まきにも努めている。

邦楽の味わい、美しさ、楽しさを伝えるために、春奏の会はこれからも深くて優しい音色を奏で続ける。

編集後記

20周年を迎えた西田記念館は、おかげさまで来館者20万人に到達いたしました(2月9日)。また、当財団は、助成事業として地域の文化やスポーツの各団体、高校生の活動へ積極的に助成しているほか、大学進学のための奨学金制度を設けております。今年度は、財団通常枠15名に公益財団法人未延財団(東京)様からの復興支援義捐金による特別枠10名を加え25名を募集予定です。

震災から5年...あらためて「すべてを地域のために」です。(KK)

かがやく® 平成28年4月10日発行

発行所 公益財団法人 東邦銀行 教育・文化財団
http://www.tohobankyoikubunka.jp/
〒960-8041 福島市大町4-4
電話 024-523-5882 FAX 024-523-3265

発行人 鹿野 幸一 ©東邦銀行 教育・文化財団
制作 株式会社 進和クリエイティブセンター
印刷 株式会社 日進堂印刷所